

豊水

静岡県水産試験場

駿河湾深層水水産利用施設

Suruga-Bay Deep Seawater Aquaculture Research Center
of Shizuoka Prefectural Fisheries Experiment Station

駿河湾深層水とサガラメ孢子体

かつて静岡県榛南海域には、サガラメが多数繁茂する海中林が存在していました。しかし、現在ではサガラメなどがなくなる“磯焼け”が発生しています。そのため駿河湾深層水水産利用施設では、磯焼け対策としてサガラメの“種”となる“配偶体”を増やす試みをしていることを、豊水 vol. 5 でご紹介しました。今回は、この“種”から育てた“苗”にあたる“孢子体”の生長に及ぼす深層水の効果について報告します。

“孢子体”とは、通常目にして葉状のサガラメのことです(豊水 vol. 3 参照)。葉の長さが約3cmのサガラメを、表層海水、深層水(水深397m、687m)で1ヶ月間飼育しました。その結果、表層水に比べて、1.2倍以上生長が早いことがわかりました。また、サガラメの色合いも良く(濃く)見た目にも生長が良好なことがわかります(写真)。駿河湾深層水には植物の生長に必要な栄養分である窒素、リンを豊富に含んでいます。そのため、サガラメの栄養状態が良く、生長や色合いが良いと考えられます。

海中林を造成する際や海面養殖などを行う場合、

陸上で“苗”の状態まで生育させてから、海域へ移植します。この“苗”の育成の際、通常は海水に栄養分を加えて使いますが、栄養分が多い深層水では栄養分を加えずにそのまま育成に使うことができます。そのため、水産試験場深層水利用施設では、海洋深層水を用いて“苗”を生産する技術を開発して行きます。



写真：表層海水および海洋深層水中で育成したサガラメ

(深層水研究室 二村和視)